

# 月山和紙の

手触りと  
あかりの  
ぬくもりに  
魅せられて



モミジ・カエデなど月山の自然素材を表面に  
織り込んだ「SHIZU」シリーズの作品。

## 和紙をちぎつたり穴をあけたり 独自の手法であかりを演出

### 幼稚園でのお面づくりを ヒントにして独学で

### オリジナルの技法を考案

—つくり方は独学で、ご自身のオリジナリティだそうですね。



月山和紙工芸作家・せいのまゆみさん  
西川町産の楮(こうぞ)を使って三浦一之さんが  
漉いた月山和紙を素材に、作品づくりに取り組んでいる。



〈Moriver編集室〉かつて西山和紙の名でつくられていた手漉きの手法を受け継ぎ、400年近い歴史を持つ西川町の「月山和紙」。その伝統の和紙を使い、生まれ育った西川町志津で創作活動をつづける月山和紙工芸作家・せいのまゆみさんにお話を伺いました。

**曾祖母から伝わる和紙で  
家業の旅館のあかりを  
つくったのがきっかけに**

—まず、月山和紙の歴史についてお聞かせください。

せいの 西川町の岩根沢で、江戸時代から西山和紙が漉かれていきましたが、高度成長期になると紙漉きをする人が急激に減って、飯野博雄さん一人になつたんです。それで、飯野さん

は何とかこの和紙を残したいと「月山和紙」と名を変えて、平成7年まで

その技法を守っていました。

この飯野さんの家が曾祖母の実家で、私の家にも小さい頃から和紙が東になつてあつたんですよ。月山和紙は、いまは大井沢の紙漉き工房で、三浦一之さんが受け継いでいます。

—創作をはじめたきっかけは?

せいの 東京で会社勤めをしていたんですが、家が月山志津温泉で旅館を営んでいたので、旅館の改装を機に

こちらに帰ってきたんです。

そのとき、玄関のあかりを、おもてなしの心を表すようなものに変えた

いとつたんですね。もともと何かをつくるのが好きなので、まず家にたくさんある和紙を利用してランプシェードをつくってみようとした。それが、きっかけでした。

## 和紙をちぎつたり穴をあけたり 独自の手法であかりを演出

### 幼稚園でのお面づくりを ヒントにして独学で

### オリジナルの技法を考案

—つくり方は独学で、ご自身のオリジナリティだそうですね。

せいの 幼稚園のとき、風船に紙を

何枚も貼つてお面をつくることがありました。それで、同じような方法

でランプシェードもつくれるのではないか…と試行錯誤して自分なりの技法を考えたんです。

和紙は、ちぎつて使います。そのままでもいいんですが、私の中では、どうしても物足りなさがあるので…。

思っています。

ちぎつて貼ると、和紙の重なりで濃淡や表情ができますから。

和紙に穴をあけたり、カットするのも私のこだわりで、そこから漏れる

あかりが周りの壁に映ることで、单体で光らせるより空間や雰囲気に広がりができるんですね。

ランプシェードは、あかりをつけるときとつけないときがあるので、日中

は和紙のオブジェとして、夜はあかりを楽しんでもらえるような、真っ白な月山和紙と色のついた和紙を組み合わせたランプシェードもつくりたい

長い間、西川町で受け継がれてきた月山和紙。

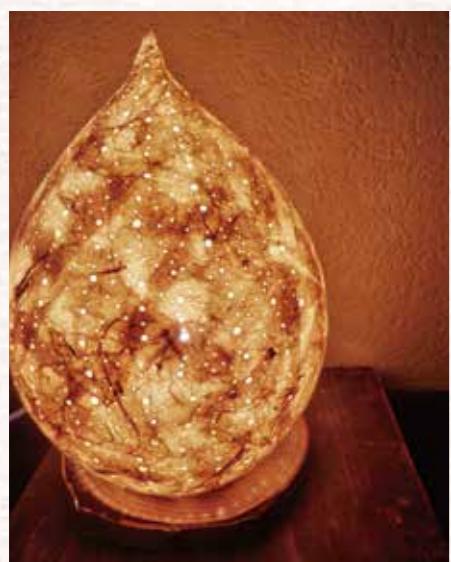
いま、その伝統の手漉き和紙に

地元の若き工芸作家の手によって新しい命が吹き込まれ、  
心を癒す優しい「あかり」になりました。

取材／渡辺和志 デザイン／矢口直樹 撮影／奥山茂俊



「月山和紙で、生まれ育った西川町志津や月山の自然をテーマにした作品をつくりたい」とせいのさん。



月山の雪解け水のようなイメージで制作した  
「しづく」シリーズのランプシェード。

